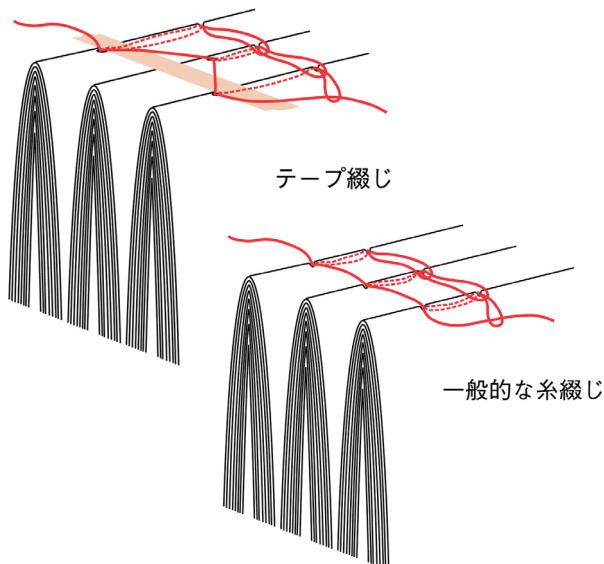
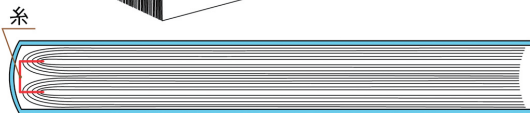
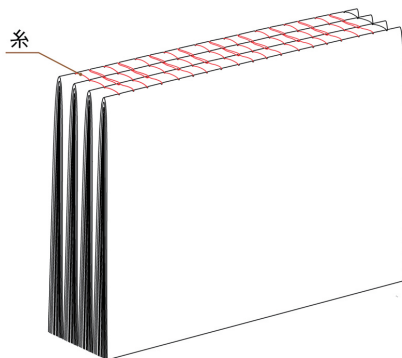




# 糸綴じ

いととじ



## 概要

糸綴じ（いととじ）とは、書籍などの冊子で、中身となるすべての折丁（印刷した用紙を冊子の大きさに折りたたんだもの）の背の部分を糸でかがって綴じ合わせることをいい、「かがり」ともいいます。

丈夫で、冊子をノドまで開くことができることなどから、折丁を綴じて冊子のかたちにする方法のなかではもっとも本格的なものです。

糸綴じには専用の機械を使う場合（機械綴じ）と手作業で行う場合（手綴じ）がありますが、量産される出版物では機械綴じによるものがほとんどで、手綴じは主に工芸製本の分野で行われています。折丁に糸を通すかがり方は機械綴じと手綴じとで異なり、また手綴じおけるかがり方にも種類があります。綴じするための糸には木綿糸（カタン糸）や麻糸などが用いられ、糸の太さや折丁を綴じる箇所数は冊子の判型や用紙の質に応じて異なります。判型の大きい冊子や厚い冊子の場合、製本の強度を高めるために、木綿や麻の布テープを背にかがり付ける処理（テープ綴じ）が行われる場合があります。